

授業運営の振り返り（2024年度）

授業担当者名(職名)	堀尾 正典(教授)		所属学科	教養(メディア造形)	
授業科目名	データ数理演習	授業方法	演習	履修者数	3名
① 授業概要とその目的					
数理・データサイエンスについての関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIの概要を適切に理解し、それを活用・判断する基礎的な能力を育成することを目的としている。この授業により、アンケートデータや様々な課題に対して、統計的な意味づけ、数理的な判断や意思決定ができるようになる。 （「思考・判断・想像力」◎ 「意欲態度」○）					
② 担当授業の現状（昨年データと比較した全体の達成状況）					
肯定評価率 33.3%（昨年 63.6%）、強い肯定評価率 0%（同 21.2%）であった。昨年に比較して 30%以上の大幅な低下となった。					
③ 授業結果への考察					
受講生も 3名と少なく、数理的な内容を丁寧に学習できたように感じるが、昨年から比較して肯定評価率は大きく低下した。だが、講義内容から見てむしろ妥当な数値に近づいたのではないだろうか。昨年からの反省もあり、学生自ら考える時間をある程度増やしていくのだが、それも低下の一因と推測される。このように評価は低下するが、学生が自分自身で考える時間はとても重要であるため、さらなる時間の確保が必要と考える。現状はまだ、教員の解説と操作の説明への比重が高く、学生はその操作をなぞるような作業が多い。					
④ 次年度改善課題への方策					
この科目は数理問題に対して興味があり、真面目で積極的な学生が参加する傾向があるため、教員の解説や説明はしっかりと聞き、取り組む学生が多い点は喜ばしい。今後、学生にとって身近になる良い練習問題をさらに増やし、学生自ら考えることに喜びを見出せるような授業が必要になる。そのようなコンピテンシーこそが数理的な要素を加味した意思決定ができる人材を育て行く。					
⑤ 学生へのメッセージ					
一般の学生に対する数理データサイエンスのリテラシー教育は始まったばかりです。この教育は、すべての学生が色々なデータ解析を縦横無尽に実行できるようにするものではないはずです。そんなことは不可能ですし、それは専門のデータサイエンティストに任せれば良いのです。我々に求められることは、生じてくる統計や解析データの結果を鵜呑みにするのではなく、強みや弱みを含めたそのデータの特徴を理解して、結果をより良い判断のために活用できるようにすることなのです。そのためにはこの授業の知識が活用されれば幸いです。					